

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和7年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	鳥栖市立 田代小学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>校内研究では、全職員が個人テーマを設定して取り組んだことで、児童の実態に合わせて課題を設定し、教師自身が身に付けたい力に向けて研鑽することができた。次年度も、教師の主体的な取り組みが児童にとって最適な学びとなるように、引き続き研究を推進していきたい。</li> <li>「心の教育」や「特別支援教育」の充実により、一人一人に寄り添うための細やかな支援に向けた工夫や改善を行うことができた。今後も児童が安心して過ごせる環境を整えるために全職員で共通理解しながら取り組んでいく。</li> <li>業務の改善については、成績処理期間に児童の下校を早めて放課後の時間を確保したり、定時退勤日を明示したりするなど様々な手立てを取りながら進めてきたが、十分な成果は出ていない。次年度も引き続き、手立てを模索していきたい。</li> <li>「開かれた学校づくり」についての評価がBであるが、開校150年の記念事業やコミュニティスクール活動など学校運営協議会やまちづくり推進センターと連携して全学年で充実した取り組みを行うことができた。保護者や地域の方に広く知ってもらうために、今後は啓発活動にも力を入れていく。挨拶については、地域の方から肯定的な意見も聞かれるようになってきており、徐々に改善されてきている。次年度も引き続き取り組みを強化していきたい。</li> </ul>
2 学校教育目標	「共に学び 心豊かに たくましく 生きる」児童の育成

3 本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>主体的・対話的で深い学びへ向けた授業改善を図る。</li> <li>思いやりの心や豊かな心を基盤とした学校づくりを行う。</li> <li>特別支援教育において校内支援体制や個に応じた指導の充実を図る。</li> </ul>
------------	---

4 重点取組内容・成果指標 中間評価 5 最終評価

(1) 共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	○全職員による共通理解と共通実践 ・学習内容の定着に向けたわかりやすい授業の実践 ・児童の主体的な学びを促す授業の実践。	○個人課題を設定して研修を行い、課題解決のために授業改善することができた教師90%以上。 ○校内アンケートの「授業内容が良かった。」と答える児童90%以上。	・個人テーマの中間報告会や授業見学会を行い、授業力向上に努める。 ・問いの共有、学びの見直しや振り返り、選択の機会などを設け、児童の主体的な学びを促す授業実践を行う。	A	・個人課題を設定して、課題解決に向けて授業を改善している教師が90%以上だった。 ・校内アンケートの「授業内容が良かった。」と答える児童が90%以上だった。 ・授業力向上を目指して行った実践をまとめ、実践報告会を行う。	A	・個人課題を設定して、課題解決に向けて授業改善をしている教師が94%だった。 ・校内アンケートの「授業内容が良かった」と答える児童が92%だった。 ・授業力向上を目指して行った実践をまとめ、実践報告会を行った。	A	・一斉や個別、協動的な学びに加えICT活用などもあり、分かりやすいと感じる。 ・子供一人一人をよく見て指導がなされていると感じる。	
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	●道徳に関するアンケート「ほかほか言葉を使って友達と仲良くしていますか」の質問で、90%以上の児童が肯定的な回答をする。	・人権週間や道徳の授業実践において、児童が人としての生き方を考えるきっかけとなる内容を盛り込む。 ・友だちや自分のよいところや頑張りを見つける活動に取り組みせ、豊かな心を育む。	A	・「ほかほか言葉を使って友達と仲良くしていると思う」と回答した児童は95%以上だった。 ・12月に人権週間を設定し、県が作成している教材を用いて全クラスが授業を行うよう計画している。 ・帰りの会で、頑張っていた友達を紹介する活動に取り組んでいる学年や学級もあるので、今後、その活動を広めていきたい。	A	・「ほかほか言葉を使って友達と仲良くしていると思う」の項目で90%以上の児童が肯定的な回答をしていた。 ・11月に県が作成している教材を用いて、全クラスが授業を行った。人権週間に合わせて学習の学びをまとめたものを掲示することができた。 ・運営委員会を中心に挨拶を頑張っている児童を放送でお知らせするなど、学校全体で児童のよい行いを紹介することができた。	A	・「生命の大切さ」を基に心の教育が重要ではないか。 ・心の教育は、学校だけでなく地域や家庭と一体となり進めていけばいいと思う。まずは保護者が手本を見せるなども大事ではないか。	心づくり部会
●心の教育	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	●いじめの早期発見、早期対応について組織的対応ができていると回答した教師90%以上。	・気になる児童の様子やいじめの対応について、週一回の連絡会や事例研修等を含めた会議を行い、いじめに対する職員の意識や組織力を高める。	A	・毎週の連絡会で生徒指導担当を中心に気になる児童の様子などについて共通理解をし、どのような対応をしていけばいいのかを検討している。 ・毎月、いじめに関するアンケートをとり、管理職や関係学年で情報共有することでのいじめの未然防止に努めている。	A	・全ての職員がいじめの早期対応について組織的対応ができていると回答していた。 ・問題事案の対応にあたっては、同学年、管理職、生徒指導担当などと連携しながら対応を行っている。また、毎週の連絡会で情報共有を行い、対応を検討している。	A	・いじめに関するアンケートが年に2回保護者にも実施されていることで、子供と学校のことについても話す機会となっていると感じる。 ・毎月のアンケートで児童が記入したり、教師が気付いたりすることで、いじめに対応している。	心づくり部会
●健康・体づくり	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●「健康に良い食事をしている」児童生徒90%以上 ●栄養のバランスがとれる食事が分かる児童80%以上	・行事や体験活動において、活動への見通しをもたせたり、キャリアパスポート等を用いて学びの振り返りを行わせたりする。 ・児童の資質・能力を育み、主体的に取り組める授業づくりを行う。	A	・先生はあなたのよいところを認めてくれていると思うと回答した児童は90%以上だった。 ・「将来の夢や目標をもっている」の児童回答は85%以上だった。 ・新学期に学期の目標や運動会で頑張りたいことを考えさせることで、活動への見通しをもたせたり、キャリアパスポートの活用もしている。今後、振り返りをさせていく必要がある。 ・キャリア教育の一環として、ゲストティーチャーを招いての授業を「学校生活アンケート」で実施する。	A	・先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」の項目で85%以上の児童が肯定的な回答をしていた。 ・「将来の夢や目標をもっている」の項目で85%以上の児童が肯定的な回答をしていた。 ・「ここにウォークラリー」では、各学年で学んだことをスライドや横断紙でまとめたり、作文を書いたりして、発表することができた。また、キャリアパスポートを活用して、学びの振り返りをさせることができた。 ・学年によっては、総合的な学習などで将来の夢について考えたり、ゲストティーチャーをよんだりしてキャリア教育を行っている。	A	・親や教師からの声かけにより、自分を見てくれているという安心から頑張りや自己反省ができるのではないかと感じる。 ・卒業生(中高など年齢が近い)との交流により、少し先の将来像が描きやすくなるのではないかと感じる。	心づくり部会
●健康・体づくり	●「運動習慣の改善や定着化」	●授業以外で運動やスポーツを行う時間が1日に30分以上の児童生徒75%以上。	・栄養教諭や養護教諭と連携し、望ましい食習慣についての授業等を発達段階に応じて実施する。 ・食に関する関心を高めるため、献立等について給食委員会が毎日放送をする。	B	・「健康に良い食事をしている」児童生徒90%以上と回答した児童は、88%だった。 ・「栄養バランスがとれる食事が分かる」と回答した児童は82%だった。	B	・学校生活アンケートで「健康に良い食事をしている」と考えている項目では88.9%の児童が肯定的な回答をしていた。 ・「栄養バランスがとれる食事が分かる」と回答した児童は82%の児童が肯定的な回答をしていた。 ・給食委員会が給食時間に毎日行っている放送や、6月に実施した人気の給食ランキング調査は、児童の食に関する関心を高めることにつながった。	B	・朝食を食べてきていない子が少数ではあるが、いるようなので心配している。 ・家庭でもバランスのよい食事を取ってほしい。そのためには親子料理教室などを夏休みに開いてみてはどうか。	体づくり部会
●健康・体づくり	●「運動習慣の改善や定着化」	●授業以外で運動やスポーツを行う時間が1日に30分以上の児童生徒75%以上。	・体育委員会でスポーツ大会などを企画し、運動することの楽しさを知ってもらうようにする。	A	・授業以外で運動やスポーツを行う時間が1日に30分以上の児童90%以上を上回った。 ・前期は天候、気温の影響でスポーツ大会を行うことができなかったが、後期は体育委員会で計画を立て、行う予定である。	A	・授業以外で運動やスポーツを行う時間が1日30分以上で遊んでいる児童が80%を上回った。 ・後期は、児童が楽しく工夫して遊ぶことができる児童が主体となってスポーツ大会を行うことができた。児童の手助けになれるよう助言を行い、道具や準備物などの準備を行った。	A	・他校に比べ遊具が少ないように感じる。 ・よく公園や広場で遊ぶ姿があり、とてもよいことと思う。 ・バーチャルな時代の中で、体験の減少から危険予測等の意識が高くないように感じる。	体づくり部会
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●月の時間外在校等時間が45時間を超える職員割合10%以内。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上	・定時退勤日や曜日ごとの退勤目標時刻を提示し、周知するようにする。 ・長期休業中の職員研修の内容を精選したり、研修を課業日の放課後に実施したりすることで、1日単位で年休を取得しやすいつ環境を整える。	B	・年度当初から共通理解している曜日ごとの退勤目標時刻を意識した働き方が定着しつつあるが、時間外勤務時間が月45時間以上となる職員が10%未満となったのは7・8月のみであった。10月に降も引き続き、見直しをもったメリハリのある働き方を呼びかけていく。 ・年次休暇については、10日以上を取得している職員が半数ほどである。また、課業日においても計画的に数時間ずつ取得する職員が増えている。	B	・後期は時間外勤務時間が月45時間以上となる職員の平均が10%未満となり、退勤目標時刻を意識し、見直しをもったメリハリのある働き方が定着してきている。 ・年次休暇については、目標としていた職員1人当たりの年次休暇の取得日数の平均14日以上を達成することができた。長期休業中の1日単位での取得が増えたことに加え、課業日の放課後等で計画的・積極的に取得する職員が増えている。	A	・行政やその他の機関からのアンケートや調査等が少なくなるとよいと思う。 ・働き方改革で下校が早まり、放課後の時間が長くなっていることから、地域の力を借りて学校に居場所作りができないだろうか。保護者が家に不在の時間帯が増えていることもあるのでは。	管理職
●特別支援教育の充実	○教員の専門性と意識の向上	○毎学期、特別支援教育に関する研修会、会議等を実施する。 ○特別支援教育に関する啓発授業を含め、障害者理解やUD教育を意識した授業をした学級90%以上。	・特別支援教育に関する研修会やケース会議を通して、教員の専門性の向上を目指す。 ・学活や道徳の時に、障害者理解に関する学習やUD教育を行い、児童の相互理解を進める。	B	・年度始めや夏休みに特別支援学級担任向けの研修や職員全体向けの研修を行うことができた。必要に応じて、ケース会議も持っている。 ・特別支援教育に関する啓発授業、特別支援学級担任が関わっている交流学級で行い、児童がお互いを理解し、安心して過ごせる雰囲気作りを目指している。 ・UD教育を意識した授業をしたと回答した教員が90%未満であったため、意識の向上に向けて研修や情報共有を定期的に行っている。	A	・全職員対象や一部職員対象の研修を年間6回行うことができた。必要に応じて、ケース会議を行った。外部からの専門家も含めた支援会議を行うことで、教員の意識も高まった。 ・特別支援学級でも、公開授業を行ったことで、支援学級担任だけでなく、通常学級担任も学習指導や支援の仕方などを学ぶことができた。 ・障害者理解やUD教育を意識した授業をしたと回答した教員は90%以上だった。	A	・対象児童が増え、特別な支援の内容も多岐にわたる中、教職員の取り組みと苦勞に感謝したい。 ・支援クラス在籍ではないが、特別な支援を要すると思われる児童への対応が難しいように感じる。本校だけでなく市全体の課題でもあると思うので、行政からも対策等を進めてもらえたらと思う。	心づくり部会

(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
◎小中一貫教育の充実	◎教科「日本語」の実践充実	・保護者・地域等に対する教科「日本語」の授業公開学級率85%以上 ・保護者等に対する教科「日本語」に係る情報を年間1回以上公開した学級率85%以上	・授業参観日における教科「日本語」の授業を全学年で公開する。 ・学級だより等を通じて教科「日本語」に関する情報を公開する。	B	・半数以上の学級が授業参観で、日本語の公開授業を行った。未公開の学級も、今後実施する予定である。 ・学級便りなどで、日本語に関する情報を公開するように、職員に呼びかけている。	A	・授業参観日における教科「日本語」の授業を100%の学級で公開した。 ・教科「日本語」に係る情報を、年1回以上保護者に公開した教員は92%だった。	A	・伝統的言語文化の根幹である「日本語」に期待している。発表や展示などがあればより励みになるのでは。 ・外国語も大事だが、まずはしっかりと日本語を習得すべきだと思う。	
○開かれた学校づくり	・学校運営協議会の取組の推進 ・人と人を結ぶ「挨拶」の推進	・学校運営協議会の取組や学校の様子を毎月2～3回、学校HPで発信する。 ・児童アンケートで「挨拶を積極的にしていますか」の質問で80%以上の児童が肯定的な回答をする。	・学校運営協議会での取組を充実させ、地域への活動を学校教育へ活かす。 ・道徳や特別活動を中心に「挨拶」を課題にした授業に取り組む。	A	・学校運営協議会では、コミュニティスクール活動の推進に向けた積極的な協議が行われ、全学年で充実したコミュニティスクール活動が計画・実施されている。 ・各学級、道徳や特別活動を中心に「挨拶」を課題にした授業を行うことで、「挨拶を積極的にしていますか」の項目で85%以上の児童が肯定的な回答をしていた。家庭、地域内でも進んで挨拶ができる児童が増えていく。	A	・学校運営協議会では、コミュニティスクール活動の推進や改善に向けた積極的な協議が行われ、充実した活動が実施された。 ・運営委員会を中心に挨拶運動が行われたことで、「挨拶を積極的にしていますか」の項目で85%以上の児童が肯定的な回答をしていた。家庭、地域内でも進んで挨拶ができる児童が増えていく。	B	・挨拶は、児童も教職員もより進んでほしい。もっと地域の力を借りるべきだと思う。学校行事の案内を地域にも行ってはどうか。 ・コミュニティスクールを理解してもらうためにも、保護者の協力が必要ときには、すぐで募集することを年度初めに伝えておくよいのではないかと感じる。	管理職 心づくり部会

●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志と誇りを高める教育

5 総合評価・次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>校内研究では、全職員が個人課題を設定し、授業改善に向けて取り組んだことで、教師自身が身に付けたい力に向けて研鑽することができた。次年度も、教師の主体的な取り組みが、分かりやすい授業の実践や児童の個別最適な学びにつながるように、引き続き研究を推進していきたい。</li> <li>「心の教育」や「特別支援教育」の充実により、一人一人に寄り添うための細やかな支援に向けた工夫や改善を行うことができた。今後も、いじめの早期発見、早期対応に向けた実践を充実させ、児童が安心して過ごせる環境を整えるために全職員で共通理解しながら取り組んでいく。</li> <li>業務の改善については、定時退勤日や曜日ごとの退勤目標時刻を提示したり、長期休業中に1日単位で年休を取得しやすいつ環境を整えたりしたことで、ワークライフバランスを考えた働き方を推進することができた。次年度も引き続き、手立てを模索していきたい。</li> <li>「開かれた学校づくり」については、学校運営協議会やまちづくり推進センターと連携してコミュニティスクール活動を全学年で行うことができた。保護者や地域の方に広く知ってもらい、より充実した活動としていくために、今後も啓発活動に力を入れていく。挨拶については、改善されている実態もあるが、課題も見られるため、次年度も引き続き取り組みを強化していきたい。</li> </ul>
----------------	---